

緑の管理は、防災と 美しいまちづくりの両面で

要望し続けてきた危険斜面、危険樹木への対応は昨年末、緑を管理し防災・安全のための庁内横断組織が誕生。本年度内に調査が行われます。各部局が連携しての早急な対応を望みます。

民有地に関しては6年に1度だった「樹林維持管理事業」が3年に1度に短縮、危険樹木の伐採頻度が多くなり、市民の方から喜びの声を頂いています。

ここで大切なのは防災だけでなく、緑環境の美化ということからの伐採や草刈りなどです。所有者や周辺住民の高齢化で、放置されることも多く、住民も参加できる組織を作ること提案します。すでにある「緑のレンジャー」を拡大して、協働の組織を作れないでしょうか。

漁港(船揚場)整備について 県に行ってみました

私が鎌倉地域の漁港の整備に取り組んでから9年。この夏、県の水産振興担当課長、水産課漁港グループ副技官、海岸課なぎさグループ副技官に面談してきました。

日頃市の担当が県に行き来している中で、その対応に苦慮しているところですので、「船揚場」の整備が進むように直接要望。様々な問題点があることを聞かされましたが、帰り際に、水産課から3者で、つまり水産課、砂防課、鎌倉市で話し合うという言葉を得ました。

私の感触では県の積極的な協力を得るには、事務レベルの働きかけだけでは限界があると感じています。市長自身のトップセールスをお願いするところです。

ブログ「いやさか通信」から

鎌倉歴史文化交流館植樹



植樹されたのは「鎌倉桜」。「桐ヶ谷桜」とも呼ばれ、足利尊氏によって京都御所に植えられた鎌倉生まれの桜です。一重咲きと八重咲きの花が1本の木に咲く珍しい桜(10/5)。

自治体通信から取材受ける



H24年に公布された「自転車安全利用促進条例」とH26年に制定した「鎌倉市議会基本条例」。条例化を進めた3議員と共に取材を受けました(9/27)。

保育園などの複合施設を



「浄明寺地区県営鎌倉団地」跡地を市が取得決定。旧鎌倉東地区には保育園が1つもなく、約2,100㎡の土地は様々な複合施設が可能です(9/13)。

藤沢ビジネスフォーラム参加



第1部は牧島かれん衆議院議員の講演、第2部のパネルディスカッションに参加して、他市の市議と共に地域の政治を語りました(8/26)。

H29年度総合防災訓練



各種訓練と共に、陸上自衛隊が配置したダンボールベッドを体験。丈夫で床からも高く、お年寄り方の寝起きにも適しています(8/24)。

源頼朝観光議員連盟総会



私が会長を務める頼朝ゆかりの各市議員による連盟。今年は鎌倉で総会を行いました。文化交流館の見学をし、頼朝公の墓前に参りました(8/19)。

前川あやこのホームページからブログ「いやさか通信」をご覧ください。
<http://www.maekawa-ayako.net>

共育のまち、鎌倉をつくろう



11月7日から始まる中学校給食。9月29日に試食会がありました。主食と汁物の保温には蓄熱材が使われ、温かいまま食べられるよう配慮。お弁当箱とお椀は重ねて1セットの工夫。試食会の献立は、鶏の唐揚げネギソースかけ、野菜の味噌ドレッシング和え、五目スープ、塩肉じゃが、ご飯と牛乳で、とても美味。平成21年に要望を始めて、8年の歳月が経ちましたが、いよいよ開始です(2017.10.06)。



前川あやこ

無所属 鎌倉市議会議員

2005年初当選 4期目 鎌倉みらい代表

議会運営委員会委員長

教育・子どもみらい常任委員

政策法務研究会メンバー

レポート

NO.54

2017,11発行

2017年9月議会からのご報告

- 1 緑の管理と漁港(船揚場)整備
- 2 障がいを持つ方の就労拡大を
- 3 子どもをめぐる環境づくり
- 4 産院ティアラかまくらの役割は

討議資料

障がいを持つ方の就労 市役所、市内企業の雇用拡大を

◆来年度は法定雇用率が2.5%へ

今年度の鎌倉市役所に勤務する障がい者の方は、身体的障がい者19名、知的障がいを持つ方が非常勤で2名、2.39%になります。法定雇用率が来年度から2.5%となりますので、増員が必要です。数字をクリアするだけでなく、大幅な雇用拡大を求めています。健康福祉部の持つノウハウを総務部の中で活かさないのでしょうか。

さらに市役所の中にも特例子会社の取り組みを行い、働ける場を確保、庁内の仕事から作業を切り離して、障がいの種類と程度によっても静かに働ける環境づくりを要望。ワークステーションを設置する解答がありました。

◆障がい者雇用奨励金の活用を

現在市内の事務所で障がい者を雇用し、雇用奨励金が支給されているのは19カ所、62名です。支給額はH24年度には約1,900万円程だったのが、H28年度には約600万円と1/3になっています。残念なことで、制度の積極的なPRに欠けていると申せます。

障がい者が働きやすいように支援するジョブサポーター制度があります。この活動状況の中でも、雇用企業の数が増えています。課題の一つは、障がい者の働く環境も専門性を求められるようになる中、ジョブサポーター活躍の場を市がつくり、一般商店でも雇用奨励金が利用できることのPRなどが重要です。

由比ガ浜こどもセンター開設

保育園、子育て支援センター、障がい児通所支援施設、津波避難場所などの複合施設が建設中でしたが、保育園がひと足早く11月6日にオープンします。

子どもをめぐる環境について 生徒自身による解決を応援しよう

◆いじめ対策、スクールバディ制度

いじめの問題を子ども達自身の取り組みでなくしていく「スクールバディ」。昨年手途中で始まり、今年は御成中、第二中で実施されています。

両校の取り組み初日の集会に出席しましたが、多くの生徒が真剣に取り組み、バディに志願する生徒の多さに驚きました。生徒達の問題意識は高く積極的。早急に市内全中学校で導入し、全校の代表生徒が取り組み状況等を発表しあうサミットのような会合を開催し、一過性ではなく、充実したスクールバディ活動にして行きたいと思います。

◆スマートフォンの便利さと恐さを考える

部活等の連絡ツールとしての便利さとともに、いじめの道具にもなり、ゲームなど依存症の問題もあるスマートフォン。市では「依存症予防教育推進事業」を始め、第1回の予防講演会を開催しました。来年度以後も市内全中学校で1年生を対象に、継続的に依存症予防教室を実施していく予定です。

県内では午後10時から翌朝6時までの「夜間ゼロ運動」を展開している市もあります。保護者の理解が成功のカギ、と言われますが、この問題でも、子ども達自らが携帯電話、スマートフォンの扱い方やルールを考える方法が取れないでしょうか。そしてスクールバディに見るように、生徒達の力に期待しています。

第17回 かまくら子ども議会開催

市内小中学校の代表32名が議員となり、いじめや学校施設の問題を討議。「みんなに愛され、すべての人が笑顔になれる鎌倉をつくる」と議会宣言されました。

出産をめぐる状況について 鎌倉地区唯一のティアラかまくら

◆女性達の希望出生率と現実の差

鎌倉市の18歳から34歳までの女性に実施したアンケートでは、希望出生率1.74。現実にはH26年度の合計特殊出生率は1.18。この落差に驚かされます。5年後に1.4まで上げることを目標としています。

少子化が続く中、大きな目標ですが、実現には産むことから育てることまで様々な施策が必要で、特に出産環境の整備が大切です。H20年当時、鎌倉には産院が一つしかなく、是非にと誕生したのが、市と医師会協働の「ティアラかまくら」。H20年2月の開院からH28年度まで、2,069人の赤ちゃんが誕生しました。

◆ティアラかまくらの役割は終わったのか

現在市内の産院は4カ所。このため年間約1.3億円の補助が必要な「ティアラかまくら」の見直し計画があります。しかし、「ティアラかまくら」以外の3院は全て大船地区。鎌倉地区からは1つも無くなります。

自宅から近距離で出産できる場所がいかに大切か、特に第二子、第三子の出産に際しては、上の子どもが通う学校や保育園との関係もあり、電車、バスを乗り継ぐ通院がいかに大変か、言うまでもありません。「ティアラかまくら」の存続については、市民の声を聞き、特に鎌倉地域の方の声、ニーズの把握に努めて下さい。経費や数だけの問題ではありません。

家庭系ゴミ有料化減量効果続く

家庭系燃やすゴミは、H27年からの有料化によって減量。今年度も減量が続き、当初心配されていた揺り戻しによる増量が無かったことが判明。